

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

④その他

**特に効果的であり改善に資した事例について**

**F. その他**

**④その他**

**《人社系》**

**●北海道医療大学心理科学研究科臨床心理学専攻**

**「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」の事例**

**＜大学院生の恒常的研究活動の促進と情報発信＞**

**(具体的に何を実施したのか)**

臨床心理学に関連する高度専門家の一つの側面である「臨床家の目を持つ研究者」の養成という点から、修士課程では、心理学基礎科目の学修に始まり、研究指導と修士論文の作成に至るまでの経過の中で、研究という視点から臨床の現場で起きていることを見ることができるよう指導の着眼点を定めた。また、修士課程、博士後期課程ともに、日頃から行っている研究の成果を社会に向けて積極的に情報発信することを推奨するよう指導を行った。

**(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)**

修士論文指導を主査を含む3名の教員によって行うとともに、大学院生による共同研究を奨励し、研究に参画する機会が増えるよう配慮した。また、論文執筆の技術について個別に大学院生を指導する機会を準備した。さらに、成果を公開するにあたり、学会参加に伴う経済的負担を軽減するために、発表者に対する学内外の経費補助制度を積極的に活用するよう奨励した。

**(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)**

修士論文をはじめとして、大学院生の研究に取り組む姿勢がより真摯・熱心になるとともに、その結果として、大学院生が行う学会発表の件数（国内学会、および国際学会）が増加した。海外の学会での発表件数も増加した。同時に、学会誌に掲載された学術論文数が増加した。また、博士後期課程の大学院生にあつては、日本学術振興会特別研究員として採用される大学院生数が増加するとともに、博士後期課程修了時での学位取得率がほぼ100%となった。さらに、博士後期課程修了者は大学等の研究職として就職している。

**《理工農系》**

**●名古屋大学多元数理科学研究科多元数理科学専攻**

**「学生プロジェクトを支援する数理科学教育」の事例**

**＜教育研究支援室の準備＞**

**(具体的に何を実施したのか)**

教育研究支援室の整備を行い、院生と教員のインターフェイスとして教務、研究のサポートを行い、Newsletterを発行し、院生の声や研究成果などを学内外に発信した。また修

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

④その他

士論文提出や学位申請の窓口として手続きなどの相談にあたるなど院生のよきコンサルタントとして機能した。

**(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)**

二週間に一度研究科長をオブザーバーとして教育研究支援室ミーティングを構成員全体で行い、様々な業務の予定、進捗状況、目的などを確認するとともに作業の効率化を図って、各人が明確な目的意識を持って業務に当たれるように努めた。

**(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)**

様々な教務プロセスが院生にとって非常に分かりやすいものになって、オープンな雰囲気の中自由に教育研究に励める環境が整備された。教育研究支援室が作り出すオープンで優しい雰囲気が教育研究環境の十分なサポートとなり、それが進学率、定員充足率、学生講演数、学位申請数などの改善につながった。